

鬼瓦 のルーツを尋ねて 韓国へ ⑫

韓国一人旅 1日目

前橋市 富山 弘毅

予約のタクシーがない！

一抹の不安を感じながら、2008年11月、韓国金浦空港に降り立ちました。

飛行機の到着が20分ほど遅れましたが、日本語OKのタクシー「空港シャトル」の運転手が出口で待っているはず。

でも、数回行ったり来たりしても、「〇〇様」などのプラカードを掲げた10人ほどのお迎え人達の中に、私の名は見あたりません。スタートからつまづきのかなと、少しあせりました。

見回すと、インフォメーションセンターがありました。日本語の出来る女性がいたので、事情を話すと、タクシー会社に電話してくれて、まもなく「富山様」と書いたプラカードを持った男性が現われました。

「出口でお待ちしていたのです」「そうですか。何度も探したのですが、見つかりませんでしたよ」「いいえ、いました」…。

やり合っても仕方がないので、名刺を交換して、「出発しましょう。どうぞよろしく」と、車に乗り込みました。何はともあれ、ホッとしていたのです。

「まず、地図を買いたいのです。書店によっていただけませんか」と頼むと、「はい。…この辺りにあったはずだが」と、金浦の狭い道をぐるぐる走り回りま



ソウル 奉元寺 極楽殿 棟端瓦龍

す。どうやら、店がなくなってしまったようです。

お寺まわりの時間がなくなるぞと心配になって、書店探しは中止しました。

独学の日本語で勝負

運転手の尹（ユン）さんは30歳ぐらいに見える男性で、名刺に「課長」とありました。日本語はなかなかみごとで、「どこで勉強したのですか」と聞くと「独学です」といいます。立派です。

タクシー業界の競争は激化する一方で、何かセールスポイントを持たないと太刀打ちできないと、日本語に挑戦しているのだといいます。この「空港シャトル」は24時間、日本語対応の電話受付をしています。

さて、私はインターネットで契約した時、「12:05 金浦空港着。空港からソウルのホテルに行く途中、ソウルの西大



奉元寺 大雄殿 隅瓦 鳳凰



奉元寺 七星閣 隅瓦 龍



奉元寺 冥府殿 平瓦 龍

区の白蓮寺、奉元寺、北区の新興寺、奉国寺、慶国寺などの寺を回り、4時ごろホテルに着きたい」と、3時間半で5寺以上回りたいと希望してありました。

尹運転手はカーナビを頼りに案内してくれたのですが、日本人を寺に案内することはめったにないし、寺のはしごをする客は初めてだといっていました。

ハングルの「九条しおり」

私は、前橋・大利根地区九条の会をつくった「九条しおり」—日本国憲法第九条を日本語と韓国語で表裏に印刷しラミネート加工したもの—を手渡して言いました。

「韓国併合 100 年です。日本はかつて、本当にひどい仕打ちで、韓国の人々を痛めつけてきました。本当に申しわけありません。深く反省して、憲法で戦争は絶対にしない、戦争の準備もしないと決めました。その憲法九条を守り生かすために、九条の会をつくって活動しています」。彼は、「過去のことは過去のことです。これから仲良くしていけば」と答えました。観光業者に共通した、お定まりの外交辞令に聞こえました。

私の言葉も外交辞令として受け取られたのでしょうか。訪韓する日本人はみんな、私と同じような挨拶をしているのでしょうか。

山中の大寺院・奉元寺

車は大都会ソウルを西から北へ遠巻

きにするように走り、ぐんぐん山の中に入りこんで、やっと奉元寺にたどり着いた、という感じでした。

奉元寺(ボンウォンサ)は大寺院です。壁絵がみごとな三千仏殿のほか、大雄殿、七星閣、冥府殿、極楽殿、満月殿、梵鐘閣、観音堂、そして道場があります。

残念ながら鬼瓦はありませんでしたが、みごとな龍の棟端瓦があり(前頁写真)、隅瓦にも龍面文が多く、鳳凰文、蓮華文もきれいでした。



(上) 奉元寺 三千仏殿 (下) 奉元寺 冥府殿



奉元寺 冥府殿
棟端瓦 龍2頭
(下・白蓮寺
山門と同范)
平瓦にも龍



奉元寺 満月殿 隅瓦 龍



白蓮寺 山門 隅瓦 龍2頭



白蓮寺、慶国寺も壮大

さらに山中を走って、白蓮寺（ペンリョクサ）につきました。堂々たる山門、みごとな鐘楼。鼓楼には珠玉をくわえた木魚のような龍が下がり、大太鼓には華麗な龍の絵が描かれていました。そして、壁画の美しい薬師殿の前には、華やかなちょうちんがぎっしり並んでいました。境内の隅からは、ソウルの街が展望できました。

鬼瓦はなく、隅瓦には龍のほか、意味不明の文様が目に付きました。

慶国寺（キョングクサ）も大寺院でした。極楽宝殿には龍の棟端瓦の上に栗の形の鬼瓦がありました。かつて慶州の仏国寺（拙稿⑦参照）、仏塔寺（同⑨参照）

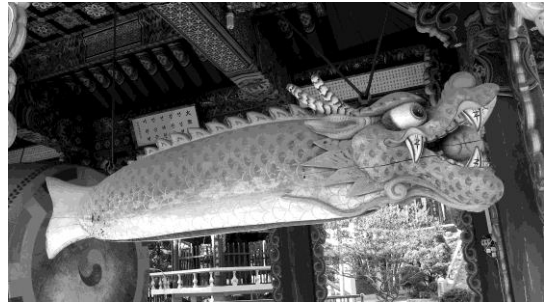
などで見つけたものと同范でした。

霊山殿、壁絵のきれいな山神閣、三聖宝殿、大雄殿、文殊院、社務所などの隅瓦は、ほとんどが龍面文でしたが、花をデザイン化したと思われる隅瓦もありました。

ソウル初日は、半日で奉元寺、白蓮寺、慶国寺の3寺を回るのがやっとでした。

日本より緯度が高いからでしょう、3時を過ぎると11月の太陽は急に傾いて、慶国寺では「光が足りない」と感じました。

ソウル北部の山の寺から都心に向かう道の渋滞は東京以上でしょうか。繁華街の明洞（ミョンドン）に近いホテルまで1時間もかかり、チェックインしたのは5時近く。すでに夕暮れになっていました。



白蓮寺 鼓楼（上）木魚のような龍
（下）太鼓に龍の絵



白蓮寺 薬師殿前 ちょうちんの波



白蓮寺
隅瓦
星？



白蓮寺 隅瓦 蓮



白蓮寺 薬師殿 隅瓦 龍

タクシー代は基本料金 45,000W (ウン)、2 時間延長分 50,000W、合計 95,000W。10 万W 渡して「お釣りはいりません」。「会社にお電話くだされば、いつでも」と言う尹運転手に、「カムサハムニダ」を言って別れました。

明洞の書店で地図を探す

初めての土地でも地図さえあれば寺探し、鬼瓦探しが出来るというのが、長年の経験でした。しかし、今は、詳細な都市地図がないのです。

韓国から前橋にお嫁に来た方に、どこで都市地図が手に入るかと聞いたら「その土地に行けば多分、あるでしょうが」と、自信なさそうでした。

いずれにしても、本屋だろう、本屋はどこにあるだろうか。

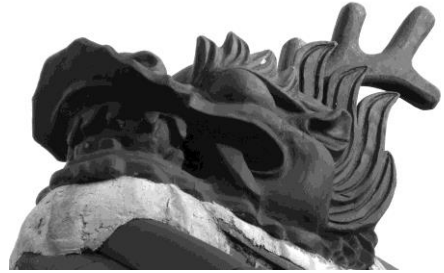
ホテルで聞いたら、徒歩 15 分の明洞地区にあると教えてくれました。夕食がてら出かけて、かなり大きな書店を発見しましたが、地図のコーナーがどうしても見つかりません。しかたなく店員に漢字で「地図」と書いて見せたら、案内してくれました。「詳細」と書いて見せたら、分厚い住宅地図を指差しました。

役立つ地図を探し出すのに苦労しました。大都市名は漢字表記ですが、それ以外はほとんど全部ハングル表記です。詳細図はべらぼうに細かく、どれが私の狙う方角、忠清北道や忠清南道のどの辺に当たるのか、目がチラチラするばかりなのです。

まことに勝手ながら、寺がひとつでもたくさん記載されている地図が、私にと

っては「よい地図」なのです。「韓国全図」は荒っぽくて、3 種類ほど見比べても寺の載せ方がまちまちで、道路もハッキリしません。しかも、寺に必ず卍マークがついているとは限りません。

1 時間以上かけて 3 冊買いました。日本語入りの「全国観光地図(5 万分の 1)」6000W、日本語なしの「大邱地区」6000W、「扶余地区」8000W。



慶国寺
棟端瓦
龍



慶国寺
極楽宝殿
棟端瓦
龍(手前)と鬼



慶国寺 山神閣 壁絵



慶国寺 峯巖會 隅瓦 ?



慶国寺 山神閣 隅瓦 蓮花



慶国寺 社務所 隅瓦 花?

さて、明日どうしようか

「もう、くたびれた、夕食はどこでもいいや」…。明洞の夜は音楽や呼び込みがガンガンやかましい。露天がいくつも出ていて、若いカップルが立ち食いしていました。美味しそうな臭いが鼻をくすぐり、チョット心をひかれました。でも、あれこれ食い意地を張るほど、胃袋が大きくないのが残念のきわみです。

結局、中くらい混雑している店で石焼ピビンバを注文。8000W。感激するほど「うまい！」とは思いませんでしたが、空きっ腹にはまあまあでした。

ホテルに帰って、すぐ地図を広げました。明日は、どの方角をめざそうか。日本から持参した地図と、買ったばかりの地図を比べながら、あれこれ思案し、やっと決心しました。——ソウル駅から高速鉄道KTXで大田（デジョン）駅に行き、そこで少しでも日本語の出来る運転手のタクシーを探そう。行きたい寺は、ここここ…。

待てよ。電車の切符はどのようにして買うのだろうか。KTXはどの程度の本数が走っているのだろうか。大田までのくらい時間がかかるのだろうか。…

フロントに行き、日本語スタッフを呼んでもらい、駅の窓口でこれを出せば大田までの切符を売ってくれるというメモを書いてもらいました。

地図も寺も日本と大違い

旅行会社JTBが「韓国三十三観音聖地・心の巡礼」というツアーを企画したことがありました。「韓国政府公認の巡礼企画」として、1回目は16寺、2回目は17寺を7日間ずつで参拝し、各1回は寺に宿泊（テンプルステイ）します。

これは鬼探しに好都合だと申し込んだのですが、人気が出なくて催行中止になりました。翌年、またパンフに載ったので問い合わせをしましたが、やはり希望



慶国寺 金剛般若台。木戸が開いていたので中庭に入り、日本のお寺とよく似た雰囲気だなと眺めていたら、僧侶が現われて「ここは立ち入り禁止。出て行け」というしぐさ。「写真を撮らせていただいているのですが」と言った私の日本語は通じなかったでしょう。やむを得ず退散しました。

者が少なすぎて断念すること。アテにはできそうもないので、自分で行くほかないということになったのです。

このツアーは、寺以外のところにはほとんど寄らずひたすら巡礼に徹するバスの旅ですが、合計14日間で33か寺ですから1日2~3か寺のペースです。

韓国の寺は山また山の奥にある修道場で、隣の寺まで車で1~3時間かかるのが普通です。ちなみに同じJTBやJR四国の「四国霊場88か所巡礼の旅」は9泊10日で、1日約10寺のペースです。寺院の密集度が違うのです。

日本の地図は凡印で寺を網羅しています。寺は企業などと違って存続度、知名度が高く、地図利用者にとって抜群の目印となるからでしょう。昨今は廃寺が増えているものの、寺ばかり探して歩く私にとっては、日本の都市地図は本当にありがたいものです。

それに比べて、仏教国とまではいえない韓国の地図は寺をあまり重視しないのかな、とも思っていました。実は、それほど多くの寺がないし、とりわけ市街地には寺がほとんどないのでした。

(つづく)